



「たには会中国四国支部総会研修会兼懇親会報告」大学
14期 飯田 寿

去る平成20年6月22日（日曜日）に広島ガーデン
パレスにて平成20年たには会中国四国支部総会研修会
兼懇親会が開催されました。参加者は10名でした。

（写真 左から石崎直人先生、角谷和幸先生）



明治鍼灸大学臨床鍼灸学ユニットの石崎直人先生と明治鍼灸大学応用柔道整復学Ⅰ教室の
角谷和幸先生にご講演頂ました。

石崎直人先生には「糖尿病における鍼灸治療の役割ー研究と症例による鍼灸治療の可能性
ー」のご講演をいただきました。

我が国の2006年の国民健康・栄養調査の結果、HbA1cの値が5.6%以上6.1%未満の糖尿病
の可能性が否定できないひとが1050万人、HbA1cの値が6.1%以上または現在糖尿病の
治療を受けている糖尿病が強く疑われる人が820万人、合計1870万人が糖尿病と予備軍
であるとのこと。

糖尿病性多発神経障害の特徴

- ＊四肢（特に下肢）に起こる左右非対称性の知覚以上
- ＊灼熱感・電撃痛として出現する自発痛
- ＊夜間に憎悪する
- ＊抑うつ、食欲不振、不眠をとまなう。
- ＊深部腱反射、振動覚などの減弱・消失を認める

PENS（Percutaneous Electrical Nerve Stimulation）長さ数cmの鍼電極を用いた通電刺激を
特定の部位に行う方法。PENS治療と偽PENS治療との比較でPENS治療において疼痛が
軽減し、鎮痛剤の必要量を減らすことができた。

曲池への刺針により HbA1c の数値を抑える効果が示唆されました。

角谷和幸先生には「鍼灸臨床に応用できる身体調整法—操体法—」のご講演をいただきました。

全員参加の操体法の実演をしていただき、その結果、可動域や疼痛がいとも簡単に軽減することを確認しました。痛みのない姿勢に患者を導くのがこつようです。角谷和幸先生は柔整の先生ですが、操体法は鍼灸師にも身近な治療法ですので、今後は鍼灸の先生だけでなく、柔整の先生も積極的に講師として招くのも良いのではないのでしょうか。

